

問1 物価が継続的に上昇する中で、消費者が自分の持っているお金でどれだけのモノを買えるかという力を何といいますか？

1. 供給力                                      2. 生産力                                      3. 購買力                                      4. 競争力

問2 銀行同士が資金を貸し借りし、経済活動を円滑に進めるために行われる仕組みを何という？

1. 預金貸出                                      2. 資産運用                                      3. 信用創造                                      4. 資金決済

問3 円安によって海外からの資源や食料品の購入コストが引き上げられ、家計に負担をかける要因となる経済現象は何ですか？

1. 物価    2. 為替    3. 金利    4. 賃金

問4 日本銀行が景気調整のために市中銀行との間で行う、債券の売買による金融政策を何という？

1. 小切手    2. 手形    3. 社債    4. 国債

問5 市場の需給によって為替レートが変動する仕組みを何という？

1. 金本位制度                                      2. 固定相場制                                      3. 変動相場制                                      4. 管理通貨制度

問6 日本銀行がかつて金融政策の手段として用い、市中銀行への貸出金利の基準としていた金利を何という？

1. 公開市場操作                                      2. 預金準備率                                      3. 法定準備金                                      4. 公定歩合

問7 民間銀行の経営が行き詰まった際、日本銀行が資金を貸し出すことで連鎖倒産を防ぐ役割を何という？

1. 中央銀行    2. 政策金融機関                                      3. 市中銀行    4. 最後の貸し手

問8 日本銀行が日本で唯一発行を許可されている、紙幣（日本銀行券）を発行する銀行としての役割を何という？

1. 発券銀行    2. 一般の銀行    3. 政府の銀行    4. 銀行の銀行

問9 景気が悪化している際に、日本銀行が国債を買い入れて市場に資金を供給することで下げようとするものは何？

1. 金利    2. 配当    3. 利潤    4. 賃金

問10 円安が進んだとき、海外での売上を日本円に換算した際の受け取り金額が増加し、利益を得やすくなるのはどのような企業ですか？

1. 輸出企業    2. 卸売業者    3. 小売店    4. 輸入企業

問11 日本銀行が物価を安定させ、経済を円滑に動かすために、金利の操作などを行って調整することを何といいますか？

1. 労働政策    2. 金融政策    3. 教育政策    4. 財政政策

問12 お金に余裕がある人から、必要としている人へ資金を融通する仕組みを何という？

1. 金融    2. 財政    3. 貿易    4. 投資

問13 税金の受け入れや国の予算の管理など、政府の資金を取り扱う日本銀行の役割を何という？

1. 発券銀行    2. 市中の銀行    3. 銀行の銀行    4. 政府の銀行

問14 日本銀行が政府の銀行として管理する、国の税収などを指す公的な資金を何という？

1. 準備預金    2. 当座預金    3. 国庫金    4. 普通預金

問15 日本銀行が景気や物価を安定させるために、金利の調整などを行う経済上の取り組みを何という？

1. 財政政策    2. 金融政策    3. 公共政策    4. 産業政策

## 答え合わせ・解説

問1	<b>答え 3</b> <b>購買力</b>	購買力とは、お金を使ってモノやサービスを購入する能力のことです。物価が上がると、これまでと同じ金額を払っても以前ほど多くのモノが買えなくなります。つまり、実質的な購買力が低下し、消費者は生活水準を維持することが難しくなります。
問2	<b>答え 4</b> <b>資金決済</b>	日本銀行にある民間銀行の当座預金口座を使って、銀行同士の支払いを差し引き計算で精算します。これにより、大量の現金を持ち運ぶことなく、安全かつ確実に「資金決済」が行われます。この効率的な仕組みが現代の経済を支えています。
問3	<b>答え 1</b> <b>物価</b>	円安になると、海外から輸入する品物の価格が日本円換算で高くなります。このコスト増を避けるために販売価格が引き上げられ、結果として国内全体の物価が上昇します。これが家計を圧迫する大きな要因となります。
問4	<b>答え 4</b> <b>国債</b>	日本銀行が市中銀行から国債を買い入れると、銀行の資金が増えて市場のお金の流れが活発になります。逆に、日本銀行が国債を売ると、市中銀行の資金が日本銀行へ移動し、市場のお金の量が減る仕組みです。
問5	<b>答え 3</b> <b>変動相場制</b>	1973年以降、主要国は通貨の交換比率を市場の需給関係に応じて毎日、毎時変動させる変動相場制へ移行しました。これにより、各国の経済情勢や金利差、政治状況によって為替レートが柔軟に動くようになっていきます。
問6	<b>答え 4</b> <b>公定歩合</b>	日本銀行が公定歩合を引き下げると、銀行が日銀から資金を借りやすくなり、結果として銀行から企業や個人への貸出金利も下がるため、世の中に出回るお金の量（マネーストック）が増加します。逆に引き上げるとお金の流通量が減る仕組みです。
問7	<b>答え 4</b> <b>最後の貸し手</b>	民間銀行同士でも資金の貸し借りができない異常事態において、日本銀行が資金を貸し出すことで破綻を回避させます。これが「最後の貸し手」としての機能です。この存在があることで、預金者は安心して銀行にお金を預け続けられます。
問8	<b>答え 1</b> <b>発券銀行</b>	日本銀行は日本で唯一の「発券銀行」として、日本銀行券を製造・発行する権限を持っています。私たちの手元にあるお札はすべて日本銀行から供給されており、信用ある通貨として全国で通用しています。
問9	<b>答え 1</b> <b>金利</b>	日本銀行は国債を買い入れることで銀行の持つ資金を増やします。すると、銀行は貸し出すお金に余裕ができるため、企業や個人へのお金の貸し出しを促進しようと金利を下げます。金利が下がると借金がしやすくなるため、投資や消費が活発になり景気の回復が期待されます。
問10	<b>答え 1</b> <b>輸出企業</b>	円安になると、海外で商品を販売して得た外貨を日本円に替えた際、以前より多くの日本円を受け取ることができます。そのため、自動車メーカーや電機メーカーなど、海外での売上比率が高い輸出企業にとっては、業績が向上する追い風となります。
問11	<b>答え 2</b> <b>金融政策</b>	金融政策は、景気の加熱や不況に対処するための手段です。景気が良い時は金利を引き上げてお金の貸し出しを抑制し、逆に不況の時は金利を引き下げてお金が回りやすいように調整します。この操作によって物価を安定させ、経済が順調に発展するように支えています。
問12	<b>答え 1</b> <b>金融</b>	預金者からお金を預かり、それを企業や個人へ貸し出す銀行などの金融機関がこの仲介役を担います。お金の貸し手は利息を受け取り、借り手は事業や購入のために資金を得ることで、経済活動が活発になります。
問13	<b>答え 4</b> <b>政府の銀行</b>	日本銀行は政府の預金を預かり、国税の受け入れや公共事業費などの支払いを処理します。この役割を担うことで、国の資金を安全かつ効率的に運用することが可能になっています。政府との連携が不可欠であり、中央銀行としての重要な職務の一つです。
問14	<b>答え 3</b> <b>国庫金</b>	国庫金は、私たちが納めた税金や国が調達した借金を指し、日本銀行内の口座で管理されています。国が道路を作ったり公務員に給与を払ったりする際は、この口座から必要な金額が引き出され、経済活動に使われます。
問15	<b>答え 2</b> <b>金融政策</b>	日本銀行が行う金融政策は、民間銀行が日本銀行から借りる際の金利を調整したり、市場に出回るお金の量を操作したりすることで、景気をコントロールします。金利を下げれば企業は投資しやすくなり、金利を上げれば景気の過熱を抑える効果があります。